

## 学生諸君へ

はしかなどの感染症に対処してください 普段の対応と発症時の対応

2008.4.28 保健管理センター

2007年春、関東を中心に大学生の間で麻疹(はしか)が流行したことは記憶に新しいところです。麻疹は数年おきに(主として子供の間で)流行が見られますが、大学生にも流行が広がったことで大学の講義や実習に思わぬ影響が出ました。2008年も流行の兆しが見えます。

### 普段の対応

大学では学内での講義や実習だけでなく、学外の病院や介護施設、幼稚園から高校までの種々の学校などで実習・研修が行われ、様々な人に接します。また海外の学校に留学することもあります。実習・留学先で麻疹などの感染症に罹患したり、自分が感染症を持ち込んだりしないために、できるだけ早い時期に免疫状態を把握して置くことが必要です。現在でも、実習や留学にあたって免疫状態を表す抗体価の提出を求められることが多くなっています。

自分の予防接種歴を知るためには**母子手帳**を見ます。母子手帳の後半にある予防接種の欄で、麻疹、風疹、おたふく風邪、水痘(水ぼうそう)について予防接種を受けたかどうかを確認してください。合わせてワクチンの番号(ロット番号)も見てください。麻疹ワクチンのロット番号が「C」で始まるものは千葉県血清研究所製のワクチンで、免疫をつける効果が低いことが知られています。

自分の免疫状態を確認するためには、医療機関で前述の4疾患について**抗体価の検査**を受けます(保健診療所でも受けられます)。抗体検査にはいろいろな方法がありますから、右表に挙げた方法で行うよう依頼してください。抗体価が基準より低い場合は、ワクチンが体質に合わないのでない限り**予防接種を受けておきます**。そして抗体検査の結果や予防接種の日時とロット番号を母子手帳に貼付しておきます。

### 免疫状態確認のための検査法と基準値

疾患	方法	基準値
麻疹	NT	4倍以上
	ELISA(IgG)	8.0以上
風疹	HI	16倍以上
おたふく風邪	ELISA(IgG)	6.0以上
水痘	IAHA	2倍以上
	ELISA(IgG)	6.0-8.0以上

名鉄病院予防接種センター・宮津光伸先生による

### 発症時の対応

もし**高熱(おおむね38度)**が出た場合は、病気の原因が何であれ、授業やクラブ活動、アルバイトは**休む**ことです。自分自身の療養のためであることはもちろんですが、病原体をまき散らすのはおおむね発熱している時期ですから、感染の拡大防止という意味もあります。



イラスト：武田浩乃

麻疹は風邪より強い症状が出ますし、大人になってからかかると時に重症化します。風疹やおたふく風邪、水痘でも同じです。また抗体検査や予防接種が一時期に集中して、すぐには受けられないこともあります。自分も相手も安心して実習・留学できるよう、早めに対策を取っておきましょう。